

【感想文】

第15回全日本民医連共同組織活動交流集会

9/11~12

9月11日・12日の2日間に渡り開催された「第15回 共同組織活動交流集会 in 山梨」には、しが健康医療生協の組合員さん・職員合わせて、23人の参加がありました。

しが健康医療生協から、湖南・甲賀支部長の立入さんと常務理事の金岡さんが取り組みを発表されました。

× × × × × × × × × ×

\*片山 道夫(草津東支部)

事業所の仕事もあり11日だけの参加でしたが、記念講演は講師の近藤尚己先生のお話が、多くの資料を使って分かりやすく解説してもらい、よくわかりました。

「山梨勤医協の倒産から再建…」は、私も40代に勤め先が倒産して給料も退職金もなく、大変な苦勞をしましたが、職員のみなさんのご苦勞も並大抵ではなかったと思います。医療を守る強い信念と情熱に感動しました。

\*黒川 とみ子(草津東支部)

第17分科会に参加しました。こ

の分科会では金岡さんの発表に続く岐阜の健康友の会の「困りごとアンケート」の内容がすごくよかったです。

\*畠山 重弘(草津北支部)

山梨勤医協の倒産と復活の歴史は衝撃的でした。倒産に至った要因や、復活を支えた職員や共同組織の力と役割を、改めて詳しく学びたいと思います。

近藤尚己さんの記念講演は「つながり」が資本となり、健康寿命を延ばす役割を果たす提起は、医療生協の班活動、支部活動の意義や役割を改めて見直すものとなりました。

様々な視点での「つながり」を生み出す工夫を、組織活動の中に反映させていきたいと思う内容でした。

× × × × × × × × × ×

事務局にはあとお二人(草津東支部・林家さん、栗東支部・福場さん)から感想文が届いております。

ご協力ありがとうございました。

# 介護保険 お前もか！

75歳以上の後期高齢者の医療費2倍化に続けとばかりに

朝日新聞 2022/9/27

## 介護保険 利用者負担の拡大焦点

介護保険の負担と給付を見直す本格的な議論が26日始まった。社会保障審議会(厚生労働相の諮問機関)の部会では、保険料を払う年齢の対象拡大から個別サービスの負担増まで多岐にわたる制度見直しの論点を列挙。費用増のなか、利用者の負担をどこまで広げるかが今後の焦点となる。厚労省は年末までに結論をまとめ、来年の通常国会への改正法案提出を目指す。

最大の焦点の一つが利用者の負担割合の拡大だ。現在は原則1割だが、2015年からは一定の所得のある人(単身なら合計所得160万円以上で、かつ年金収入やその他の合計所得が280万円以上)に2割負担を導入。18年からは「現役並み」の高所得者(単身なら合計所得220万円以上で、かつ年金収入とその他の合計所得340万円以上)の人は3割負担とした。

社会保障審議会 議論始まる

ただ、さらに負担増が必要との声は強く、2割や3割負担の対象者の拡大や、将来的に原則2割負担とすることが検討されている。

要介護度が比較的軽い人のサービスの見直しも焦点となる。具体的には要介護1、2の人の訪問介護やデイサービスは国の介護保険サービスから切り離すかを検討する。このほか、現在は利用者負担がないケアプラン(利用する介護サービスの計画)の有料化などの案が示されている。

(石川友恵)